

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-242	高等学校	国語科	言語文化	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
15 三省堂	言文 015-902	新 言語文化 改訂版		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、中学校の国語学習の到達点を意識し、高等学校の国語学習が円滑にスタートできるよう、基礎・基本をふまえ、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え的確に判断するバランスのとれた能力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけまし

た。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もっとも基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという作業は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、話す・書くの領域における表現活動と、聞く・読むの領域における理解活動とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。この教科書では、表現、理解の学びに独自の学習の場を設定することで、それぞれの学習の場において、生徒たちの活発な学習活動を促し、話す・聞く、書く、読むの全ての領域にわたる言語能力を高めるよう配慮しました。その際、これまでの内向的な学びの傾向への反省から、自分の意見や考えを積極的に発信することで、他者ととともにする協働的な活動を通して、開かれた個性の育成、広範な教養の育成を目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
食器棚の奥で	若年期における物事への向き合い方について、作家が自身の体験をもとに記した文章を読むことで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	14～17
魔法を知る	外国文学研究者が自らの読書体験について振り返り、読書の意義について記した文章を読むことで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視することを目指した（第二号）。	18～21
兄のそら寝（宇治拾遺物語）	古くから受け継がれてきた説話に親しむことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した（第一号）。	26～29
故事二編 借虎威／蛇足	現在も使用されている言葉の由来となった文章を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した（第一号）。	34～41
ゴール	働くことや、生きることの意味が見失われつつある現代の管理社会や、そのシステムについて扱った文章を読むことで、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	46～52
絵仏師良秀（宇治拾遺物語）	絵仏師としての成功を求め、作品を生み出すことに執念を燃やした登場人物の言動を描いた文章を読むことで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	60～64
十八史略 鶏口牛後／先従隗始	混迷を極めた乱世に、巧みな比喻表現を用いて為政者を説得し、社会を動かした人物の言動が記された文章を読むことで、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	66～70
羅生門	追いつめられた状況の中での人間の考え方や心の動きについて記された文章を読むことで、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	72～86
伊勢物語 芥川／筒井筒	古代から現代までのさまざまな作品に大きな影響を与えた作品の文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した（第五号）。	96～103
畏饅頭（笑府）	現代でも伝統芸能として継承されている題材のもととなった文章を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した（第一号）。	108～110

講談放浪記	古典の作品や芸能の中に受け継がれてきた精神性について、講談師である筆者が記した文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した（第五号）。	114～120
史記 鶏鳴狗盗	多くの人物を登用し、みごとに活躍させた孟嘗君について扱った文章を読むことで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	124～128
平家物語 木曾の最期	極限状況の中で生きる人間どうしの関係性や言動について記された文章を読むことで、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを目指した（第三号）。	132～139
待ち伏せ	戦場という状況における人間の行動や心の動きについて記された文章を読むことで、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した（第四号）。	144～152
漢詩四編 静夜思／江南春／月夜／ 香炉峰下，新卜山居，草堂初成， 偶題東壁	我が国の文化に多大な影響を与えた中国の漢詩を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	162～170
和歌十首・短歌七首	我が国の言語芸術の主軸を担ってきた和歌・短歌を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した（第五号）。	174～181
漢詩四編 甕のうへ／サーカス／ シジミ／コーヒーカップ	我が国の言語芸術における華ともいえる近現代の詩を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した（第五号）。	186～194
徒然草 神無月のころ／家居のつきづきしく	筆者の人間を見る目、ものの感じ方、美意識などが表れた文章を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培うことを目指した。（第一号）	198～204
論語八章	道義的理想を掲げ、それによって社会の秩序の確立を目指した儒家の思想が表れた文章を読むことで、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	208～213
なめとこ山の熊	猟師と熊との宿命的な交流が描かれた文章を読むことで、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した（第四号）。	218～232
春を切り抜く 夏を切り抜く 秋を切り抜く 冬を切り抜く	季節を素材として、表現を工夫しながら、自分の思いや考え、感じたことを表現した作品を作ること、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うことを目指した（第二号）。 風物詩や伝統行事を素材として、調べたり考えたりしたことを書くことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した（第五号）。	55～58 91～94 157～160 235～238

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。
- ❖ 資料編の「思考の方法」などでは、文字による解説に加え、わかりやすい図解を用いることで内容を視覚的に捉えられるよう工夫しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-242	高等学校	国語科	言語文化	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
15 三省堂	言文 015-902	新 言語文化 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

主体的に学ぶ

①自ら学ぶ力を育てる ―学習の見通しと振り返りを位置づけ、「学びに向かう力」を育成する

- 単元の冒頭、及び単元を構成する教材や学習活動冒頭に学習目標を提示し、また単元の末尾には「振り返り」を設定しています。これにより、学習活動を通して身につけた力を自分で確かめ、次の学習にいかすことができるような仕組みを目指しました。
- 学習指導要領に記載された指導事項をふまえて学習の系統化を図り、「基礎・基本」を段階的かつ体系的に、確実に習得できるようにしました。
- 「読むこと」は、大きく二つの系統に分け、「我が国の言語文化」を中心に学ぶ単元（1・3・5単元）と、「文学を読む力をつけ、味わうこと」を中心に学ぶ単元（2・4・6単元）で構成しています。
- 「書くこと」は、「春・夏・秋・冬」をテーマに、興味をもって取り組める四つの単元を設定しています。
- はじめに「入門単元」を置き、言語文化の学習に意欲をもって取り組めるように工夫しました。
- 各教材の「学習活動」では、学習のプロセスを示しています。内容の理解を行った上で「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるよう、多様な学習場面を設定しています。

見通し

主体的・対話的で深い学び

振り返り

ステップ1 目標の確認

目標を確かめて、学習の見通しをもちます。

ステップ2 教材の内容を理解する

学習課題を整理・確認して、文章の内容や構成を的確につかみます。

ステップ3 考えを形成する

ステップ2で整理・理解したことをもとに、他者との対話を通して、自分の考えを形成し、表出します。

ステップ4 探究的な学習につながる

ステップ3までで形成した考えをもとに、探究的な学習につながる課題に挑戦し、さらに自分の考えを深めます。

ステップ5 学びを振り返る

自分の学習を振り返って評価し、これからの学習へ生かします。

+α 学びを広げる（広がる読書）

ステップ1～5までの学習を活用して取り組むとともに、新たな文章や資料を参照するなどして、学びをさらに広げたり、深めたりします。

絵仏師良秀

これからは昔、絵仏師良秀といふありけり。家の隣より火出で来て、風おしおほひてせめければ、逃げ出でて、大路へ出でにけり。人の書かする仏もおほしけり。また、衣着ぬきなど、さながら内にありけり。それ知らず、たまたま逃げ出でたるをこととして、向かひのつらに立てり。見れば、すでにわが家に移りて、煙、炎、くもりけるまで、おほかた、向かひのつらに立ちて眺めければ、「あさましきこと」とて、人ども来と

学習活動 ☆

1 絵を描くことに対する「良秀」の姿勢についてまとめよう。

2 最後の一文があることによつて、どのような効果が生まれているか、話し合おう。

構成や展開

文章の構成を捉える

本文の構成

序 120

1 120

2 120

3 120

4 120

5 120

6 120

7 120

8 120

9 120

10 120

11 120

12 120

13 120

14 120

15 120

16 120

17 120

18 120

19 120

20 120

21 120

22 120

23 120

24 120

25 120

26 120

27 120

28 120

29 120

30 120

31 120

32 120

33 120

34 120

35 120

36 120

37 120

38 120

39 120

40 120

41 120

42 120

43 120

44 120

45 120

46 120

47 120

48 120

49 120

50 120

51 120

52 120

53 120

54 120

55 120

56 120

57 120

58 120

59 120

60 120

61 120

62 120

63 120

64 120

65 120

66 120

67 120

68 120

69 120

70 120

71 120

72 120

73 120

74 120

75 120

76 120

77 120

78 120

79 120

80 120

81 120

82 120

83 120

84 120

85 120

86 120

87 120

88 120

89 120

90 120

91 120

92 120

93 120

94 120

95 120

96 120

97 120

98 120

99 120

100 120

▲教材冒頭で学習目標と学習活動を明示

②生きてはたらく力を培う 一言で考える力を育て、語彙力を拡充する

- ・古典を読むために必要なさまの学習への誘いとして、「古文を読むために」「漢文を読むために」を適宜配置し、学習活動の文脈の中で適切に理解し、活用できるようにしています。さらに、「資料編」にリンクさせ、詳しく理解することで、読解に必要な知識を段階的に身につけられる構成としました。
- ・「語彙」では、教材に関連した言葉を取りあげ、語感を磨き、文化的背景や言葉の変化へのより深い理解を目指しています。
- ・「資料編」には、「基本古語辞典」や「常用漢字 高校で学ぶ音訓と用例」を掲載し、語彙のさらなる拡充を目指しています。
- ・現代の生活に密着した「コラム」を教材のあとに配置し、生涯にわたる能動的な学びを促すことを重視しています。

「判官鼻眞」とは、弱者や不遇な者に同情し、肩入れする心の動きをいう。律令制では、各官司(役所)に長官(守・次官(介)・判官(掾)・主典(目)の四等官が置かれており、検非違使の掾であった源義経が源九郎判官義経と呼ばれ、平家追討で武勲をあげながらも異母兄の源頼朝に疎まれ、滅ばされたという悲劇性が同情をよんだことに由来する。

このように、歴史的な人物やできごとに関連した言葉は少なくない。私たちの祖先が何を愛し、何を惜しみ、何を語り継ごうとしてきたかが、言葉に残されているといえる。歴史をふまえた言葉として、他にどのようなものがあるか、探してみよう。

語彙
判官鼻眞

古文を読むために	漢文を読むために
①歴史的仮名遣い	①漢文の基本構造
②用言・活用	②返り点・置き字・再読文字
③係り結び	③一(豎点・ハイフン)
④助動詞	④漢詩のきまり
⑤敬語	
⑥和歌の修辞	
⑦助詞	

▲「古文を読むために」「漢文を読むために」項目一覧

古文を読むために 5 資料編 278 ページ「主要敬語一覧」

敬語

「日ごろは何とも覚えぬ鑑が今日は重うなつたるぞや。」¹³³ この台詞は誰のものだろうか。木曾殿とも今井四郎とも考えられそうである。そこで、直前を見てみよう。今井四郎、木曾殿、主従一騎になつてのたまひけるは¹³³とある。敬語「のたまふ」「言ふ」の尊⁵敬語⁵が用いられている。このことから、発言した人物は身分が高い人物、つまりは木曾殿であることがわかる。身分社会が確立している古典の世界では、現代よりもはるかに厳格に敬語が使われていた。木曾殿と今井四郎の間には、源氏の御曹司とその乳母子という確固とした身分関係が存在していたため、今井四郎は一貫して木曾殿に尊敬語を用いている。また、これは味方内に限られない。語り手が地の文で木曾殿に尊敬語を使用するものもある。敵将石田次郎の台詞にも「日本国に聞こえさせたまひつる木曾殿」¹³⁶・¹³と尊敬語がみえる。源氏の御曹司である義仲は、敵味方の区別なく敬うべき存在だったのである。

▲「古文を読むために」の例

対話をとおして学ぶ

③協働する力を育む 対話と合意形成、そしてコミュニケーション能力の育成のために

- ・「学習活動」には、ディスカッションによる意見交流や多様な表現活動を取り入れ、対話を通して考えたり、問題を解決したりする機会と場を充実させました。
- ・学習活動の補助となる問いを「学習活動のために」として配置し、単元や教材の学習活動の文脈の中で適切に活用できるようにしています。
- ・第6単元「論語」の「自分との関わりについて文章や絵を使って表現する」活動における「作品例」をはじめ、活動を行う際の参考になる例を具体的に示しています。
- ・「資料編」には、言語活動の充実に資するよう、「言語活動を行うための基礎用語集」を掲載しています。

④「共生社会」の一員として 多様な価値観、ものの見方・考え方の拡充

- ・価値観が多様化するグローバル社会で求められる、幅広い資質・能力の育成につながる教材を精選しました。
- ・例えば第6単元「なめとこ山の熊」では、SDGsを取りあげ、人間、社会、自然などの広い視野から考えを深める問いを設定しています。



▲教科書に作品例を明示

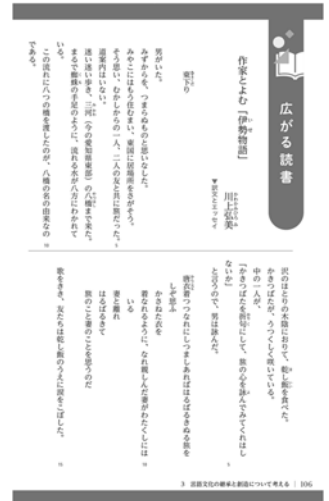
深く学ぶ

⑤自分の考えを形成する 一思考力・判断力・表現力

- ・教科書全体を通して、自分の考えを表現する（書く・話す）学習を重視しました。
- ・特に対話を通して、考えたり問題解決したりする機会と場を充実させました。また、調べたり情報を解釈したりしながら課題に向き合うことで、柔軟で多面的な思考を育成することを目指しました。
- ・最後の「選択総合単元」では、「言語文化」の学習の総合化を期し、課題や作品、発表形式を自分で選び、創意工夫を追究する学習を展開できるよう構成しました。

⑥言葉と文化の担い手として 一豊かな読書、伝統的な言語文化の継承・発展を目指して

- ・単元末尾の「ブックガイド」には、多様なジャンルの読書に誘う表紙を掲載し、本を媒介とした豊かな言語文化にふれることを目指しています。
- ・「広がる読書」を適宜配して、さまざまな文章にふれる機会をつくっています。
「作家とよむ」シリーズには、現代の作家（川上弘美、高橋源一郎ほか）による訳文とエッセイを掲載し、古典の現代的な意義を考えるための入口を設けています。また、「落語 饅頭こわい」など、多様なテキストやメディアを採録しています。



▲「広がる読書」の例

2.対照表

単元	身につけたい言葉の力	図書の構成・内容 [教材名]	学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配当数
入門	文章に表れたものの見方・考え方を捉える	食器棚の奥で (江國香織) 魔法を知る (奈倉有里)	●読イ 精査・解釈 ◆言語文化カ 読書	14～17 18～21	読 2
1 言語文化について考える	古文に親しむ	古文の世界へ	●読ア 構造と内容の把握 イ 精査・解釈 オ 考えの形成 [言語活動] イ 批評や討論 ◆言語文化ウ 伝統的な言語文化 エ・オ 言葉の由来や変化、多様性	24～25	読 9
		児のそら寝 (宇治拾遺物語)		26～29	
		コラム 辞書を引く・辞書を読む		30～31	
	漢文に親しむ	漢文の世界へ		32～33	
		故事二編 借虎威/蛇足		34～41	
		コラム 故事成語と遊説家		42～43	
	近現代の文学に親しむ	近現代文学の世界へ		44～45	
		ゴール (三崎亜記)		46～52	
春を切り抜く	素材のよさや味わいを生かす	【俳句】 菜の花や… (与謝蕪村) 雪とけて… (小林一茶) 菜の花が… (細見綾子) たんぽぽの… (坪内稔典) ポストまで… (鎌倉佐弓)	●書ア 題材の設定、情報の収集、内容の検討 [言語活動] ア 随筆に表す ◆言葉イ 漢字 ウ 語彙 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化	55～58	書 2
2 構成や展開について考える	文章の構成を捉える	絵仏師良秀 (宇治拾遺物語)	●読ア 構造と内容の把握 ウ 精査・解釈 [言語活動] イ 批評や討論 ◆言葉ア 言葉の働き エ 文や文章 ◆言語文化イ 伝統的な言語文化	60～64	読 9
		コラム 「絵仏師良秀」と「地獄変」		65	
	文章の展開を整理する	十八史略 鶏口牛後/先從隗始		66～70	
		コラム 三国志を楽しもう		71	
	登場人物の心情の変化とその契機を捉える	羅生門 (芥川龍之介)		72～86	
		コラム 羅城門には鬼が棲む		87	
		広がる読書 作家とよむ「今昔物語集」 (福永武彦)		88～89	

夏を切り抜く	構成や描写を工夫する	【短歌】 向日葵は…（前田夕暮） 逆立ちして…（河野裕子） 明日消えて…（千葉聡） 声もたぬ…（小島なお） 空を買う…（木下龍也）	●書ア 題材の設定、内容の検討 〔言語活動〕ア 短歌に表す ◆言葉イ 漢字 ウ 語彙 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化	91～94	書 2
3 言語文化の継承と創造について考える	物語における 心情表現の特徴を捉える	伊勢物語 芥川／筒井筒	●読イ・エ 精査・解釈 オ 考 の形成 〔言語活動〕ア 論述や発表 オ 発表や文章にまとめる ◆言葉ア 言葉の働き オ 表現の 技法 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化	96～103	読 9
		コラム 伊勢物語と源氏物語		104～105	
		広がる読書 作家とよむ「伊勢物語」東下り（川上弘美）		106～107	
	話のおもしろさを支える 文章の構造を把握する	畏饅頭（笑府）		108～110	
		コラム 中国の古典と日本文学		111	
		広がる読書 落語 饅頭こわい		112～113	
	言葉と文化の関係を捉え なおす	講談放浪記（神田伯山）		114～120	
		コラム 伝統芸能の世界入門		121	
4 人物像や心情について考える	人物の特徴を捉える	史記 鶏鳴狗盗（司馬遷）	●読ア 構造と内容の把握 ウ 精 査・解釈 オ 考の形成 〔言語活動〕イ 批評や討論 ◆言葉ウ 語彙 エ 文や文章 ◆言語文化オ 言葉の由来や変 化、多様性	124～128	読 9
		コラム 歴史を記録する		129	
		広がる読書 夜をこめて鳥のそら寝は はかるとも……（赤間恵都子）		130～131	
	人物像を批評する	平家物語 木曾の最期		132～139	
		コラム 平家物語紀行		140～141	
		広がる読書 作家とよむ「平家物語」（吉村昭）		142～143	
	心情表現の多様さを捉え る	待ち伏せ （ティム・オブライエン・村上春樹訳）		144～152	
		コラム 村上春樹と「世界文学」		152	
		広がる読書 翻訳の神様（村上春樹）		153～155	
		秋を切り抜く		語句や表現技法を吟味する	
5 言語文化としての韻文について考える	漢詩に描かれた 情景や心情を捉える		漢詩四編 静夜思（李白） 江南春（杜牧） 月夜（杜甫） 香炉峰下，新卜山居，草堂初成，偶題東 壁（白居易）	●読エ 精査・解釈 オ 考の形 成 〔言語活動〕ウ 論じる，批評する エ 話し合いや文章にまとめる ◆言葉オ 表現の技法 ◆言語文化ウ 伝統的な言語文化 エ 言葉の由来や変化，多様性	162～170
		コラム 漱石，漢詩をつくる	171		
		広がる読書 漢詩から詩へ	172～173		
	和歌・短歌に描かれた 情景や心情を捉える	和歌十首 小倉百人一首より 短歌七首 近代・現代の短歌	174～181		
		コラム 短歌の近代	182～183		
		広がる読書 作家とよむ「百人一首」（小池昌代）	184～185		
	詩に表された情景や心情 について理解を深める	詩四編 鰲のうへ（三好達治） サーカス（中原中也） シジミ（石垣りん） コーヒーカップ（三角みづ紀）	186～194		
		コラム 近代詩は翻訳詩にはじまる	195		

6 世界に対する認識のあり方について考える	身のまわりの物事を批評的に捉える	徒然草 神無月のころ／家居のつきづきしく（兼好法師）	●読イ・ウ 精査・解釈 オ 考えの形成 [言語活動] イ 批評や討論 ◆言葉ウ 語彙 ◆言語文化イ 伝統的な言語文化 カ 読書	198～204	読 9
		コラム 隠者の系譜		205	
		広がる読書 作家とよむ「方丈記」（蜂飼耳）		206～207	
	ものの見方・考え方を振り返る	論語八章		208～213	
		コラム 孔子の生涯		214～215	
		広がる読書 作家とよむ「論語」（高橋源一郎）		216～217	
	物語を批評的に捉える	なめとこ山の熊（宮沢賢治）		218～232	
		コラム 作家ゆかりの地と文学館		233	
冬を切り抜く	表現の効果を高める	【随筆】 豊かな日々を歳時記と（夏井いつき） 【俳句】 いくたびも…（正岡子規） 遠山に…（高浜虚子） 冬の水…（中村草田男） ゆたんぼの…（小澤實） 待ちし一枚…（黛まどか）	●書イ 構成の検討，考えの形成，記述，推敲，共有 [言語活動] ア 俳句を表す ◆言葉イ 漢字 ウ 語彙 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化	235～238	書 2
選択総合言語文化と自分とのつながりについて考える	自らの課題を決め，解釈，批評，表現を追究する	引力に逆らって（加藤千恵）	●書ア 題材の設定，内容の検討 イ 構成の検討，考えの形成，共有 ●読ウ・エ 精査・解釈 オ 考えの形成 [言語活動] ア 論述や発表 イ 批評や討論 ウ 論じる，批評する ◆言葉ア 言葉の働き ◆言語文化ア・イ 伝統的な言語文化 カ 読書	242～251	読 4 書 2
		夢十夜 第一夜（夏目漱石）		252～254	
		ミライの源氏物語（山崎ナオコーラ）		255～257	
		光源氏の誕生（源氏物語）		258～261	
		死諸葛走生仲達（十八史略）		262～263	
	ブックガイド	（単元に関連した読書案内）	◆言語文化カ 読書	22,54,90,122,156,196,234,264	
資料編	日本の言語文化史		◎国語科の学習を効果的に進める上で役立つ知識及び技能を整理して示し，国語に対する認識を深め，国語を尊重する態度の育成を図っている。	266～271	適宜
	古文のきまり	用言活用表（文語・口語）		272～273	
		文語助動詞活用表		274～275	
		文語助詞一覧		276～277	
		主要敬語一覧		278～279	
	基本古語辞典			280～283	
	漢文のきまり	漢文の基本形式		284～287	
		訓読で注意する語		288～289	
	言語活動のための基礎用語集			290～292	
	高校で学ぶ音訓と用例			293～295	
	言語文化参考図録	住居・調度・装束		296～297	
		古時刻・古方位・月の異名・陰暦月齢表		298	
		旧国名・都道府県名対照図		299	
		平安京条坊図・大内裏・内裏		300	
		古文参考地図		301	
		漢文参考地図		302～303	

※学んだことを深める場を用意するとともに読書に親しむ態度の育成を図るため，「広がる読書」を11箇所（配当時数は適宜）配置した。